

トラック輸送情報（平成22年8月分）

平成22年11月24日

国土交通省 総合政策局 情報政策本部 情報安全・調査課 交通統計室

担当：中野、金子、菊池 内線28722

直通：03-5253-8346

ホームページ：<http://www.mlit.go.jp/k-toukei/index.html>

1. 特別積合せ貨物

(1) 本月の概況

調査対象26社の本月の輸送量は、5,243,940トンで、前月と比べ総輸送量が約65万トン減少したため、前月比88.9%（季節調整済み103.8%）となり、前年同月との比較では、約37万トン増加したため、前年同月比107.5%の実績であった。

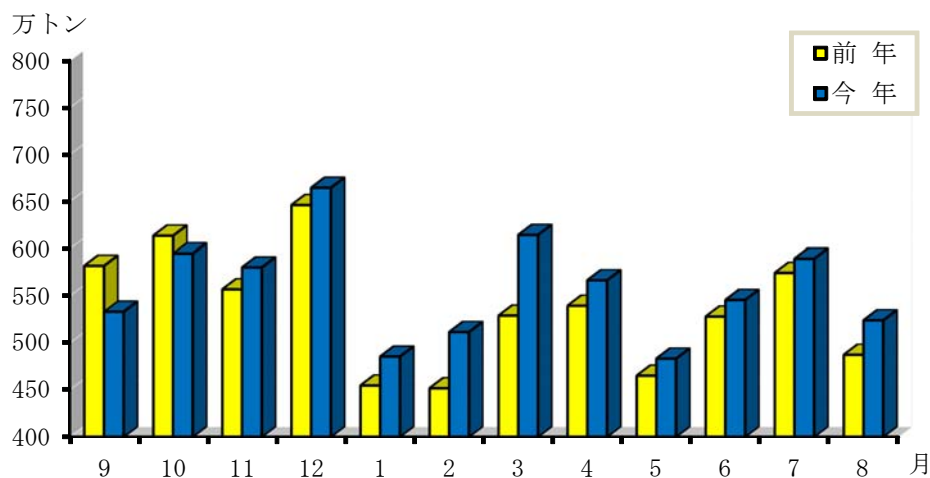
なお、平均稼働日数は23.5日で、前月と比べ1.5日減少し、前年同月との比較では、0.3日増加であった。稼働1日当たりの輸送量は、223,146トンで、前月と比べ約1万3千トン減少したため、前月比94.6%となり、前年同月との比較では、約1万3千トン増加したため、前年同月比106.2%の実績であった。

（図1-1、図1-2参照）

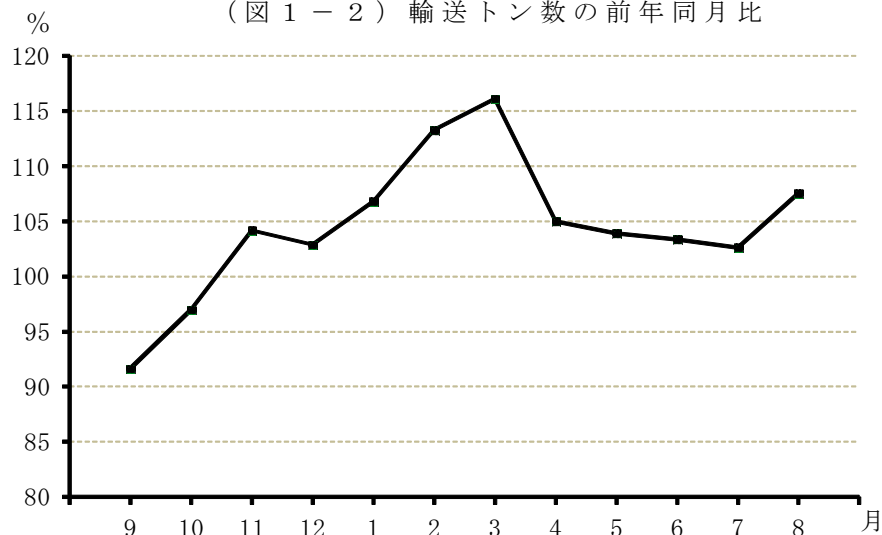
注）平成22年7月から貨物輸送の調査対象については、1社減り、26社となった。

前月比及び前年同月比は、26社ベースで比較している（図1-1及び図1-2は26社ベースで作成）。

（図1-1）輸送トン数の推移



（図1-2）輸送トン数の前年同月比



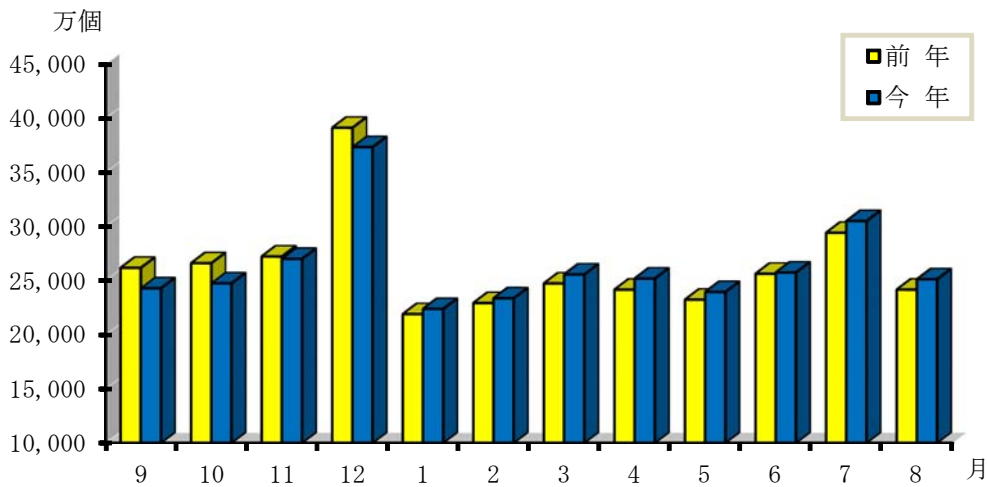
(2) 宅配便の概況

調査対象 17 社の本月の宅配便貨物の取り扱い個数は、251,411 千個で、前月と比べ 約 5,381 万個減少したため、前月比 82.4% (季節調整済み 102.0%) となり、前年同月との比較では、約 959 万個増加したため、前年同月比 104.0% の実績であった。

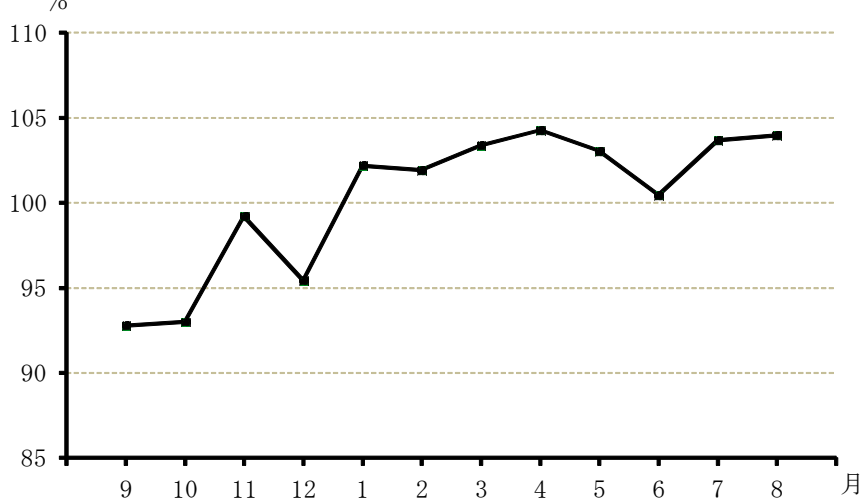
(図 2-1、図 2-2 参照)

注) 平成 22 年 7 月から宅配便輸送の調査対象については、事業承継により 1 社減り、17 社となった。

(図 2-1) 宅配便取扱個数の推移



(図 2-2) 宅配便取扱個数の前年同月比



(3) 調査対象 27 社の品目別及び地域別輸送状況 (表 1 参照)

前月と比べると、すべての品目で、輸送量が減少したと回答する事業者が多かった。減少要因としては、工場・生産地からの貨物減がすべて品目で見られたほか、倉庫から出る貨物減が「化学工業品」、「食料工業品」、「日用品」で見られた。主な減少地域は、関東地方、北陸信越、中部、大阪、近畿であった。

前年同月と比べると、工場・生産地からの貨物増が「金属製品」、「機械」、「化学工業品」等で見られた一方で、工場・生産地からの貨物減が「農水産品」、「日用品」等で見られた。「金属製品」、「機械」等の主な増加地域は東京、関東、北陸信越、中部地方、兵庫、近畿、中国であった。一方、「日用品」の主な減少地域は関東であった。

(表1) 品目別増減状況 (回答事業者数 27社)

品目	増減事業者数				主な増減品目 (上段が増加・下段が減少)	主な増減地域	※増減要因		
	著増	増	変らず	減著					
前 月 に 比 べ て	農水産品		3	10	3	2			
							野菜	北海道、九州	4
	金属製品		1	13	7				
							その他の金属製品	東北、関東地方、北陸信越、中部地方、近畿地方、中国	4, 8
	機械			10	11				
							電気機械、機械部品	東北、関東地方、北陸信越、中部地方、近畿地方、中国	4
	化学工業品		1	13	8				
							合成樹脂	東北、関東地方、北陸信越、中部、大阪、近畿	4, 7
繊維工業品		1	16	5					
						糸、その他の繊維工業品	関東	4	
食料工業品			12	8					
						製造食品、飲料、その他の食料工業品	東北、関東地方、北陸信越、中部地方、近畿地方、中国、福岡	4, 7	
日用品		1	10	10	1				
						書籍・印刷物、衣服、玩具、その他の日用品	関東地方、北陸信越、中部地方、近畿地方、中国、九州、全国	4, 5, 7	
その他	2		9	8	3				
						宅配便、百貨店配送品	関東地方、北陸信越、中部地方、近畿地方、中国、全国	2, 4, 5, 8	
前 年 同 月 に 比 べ て	農水産品		2	13	3				
							野菜	北海道、東北、北陸信越、中部、大阪、中国、九州地方	4
	金属製品	1	5	13	2				
							建設用及び建築用金属製品、工具	東京、関東、北陸信越、中部地方、兵庫、近畿、中国	4
	機械	2	8	10	1				
							機械部品	東京、関東、北陸信越、中部地方、兵庫、近畿、中国	4
	化学工業品		6	15	1				
							合成樹脂	神奈川、大阪	4, 7
繊維工業品	1	5	14	2					
						その他の繊維工業品	関東地方、北陸信越、中部地方、近畿地方、中国	4	
食料工業品		4	13	3					
						飲料、その他の食料工業品	東北	7	
						製造食品	北陸信越、中部地方、兵庫、中国、九州地方	4	
日用品		5	12	3	2				
						衣服、その他の日用品	関東	4, 9	
その他	2	7	7	3	3				
							東京、神奈川、大阪、全国	4	

(注) 「主な増減地域」については、16地域[全国、6大都市圏(東京、神奈川、愛知、大阪、兵庫、福岡)及び地方運輸局(6大都市圏を含む場合はそれらを除く府県、九州は沖縄を含む)]単位である。なお、地方運輸局に6大都市圏を含む場合は「～地方」と表記した。

※増減要因	1. 新規荷主獲得(荷主契約解除)	6. 倉庫へ入る貨物増(減)
	2. デパート、スーパーの貨物増(減)	7. 倉庫から出る貨物増(減)
	3. 他機関から貨物が来た(へ流れた)	8. 季節的需要増(減)
	4. 工場・生産地からの貨物増(減)	9. 景気の好況(不況)
	5. 商社・問屋からの貨物増(減)	10. その他

2. 一般貨物

(1) 本月の輸送状況

全国の一般貨物トラック事業者（本月の回答事業者数 804 社／調査対象事業者数 1,089 社）の輸送量は、前月比 96.4%、前年同月比 103.4%であった。

(表2) 地方運輸局別 前月比・前年同月比

	全 国	北海道	東 北	関 東	北 信	陸 越	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄
前 月 比	96.4 %	102.0 %	95.2 %	91.5 %	96.8 %	92.7 %	93.3 %	91.3 %	96.8 %	96.8 %	96.8 %	96.4 %
前年同月比	103.4 %	100.1 %	107.9 %	103.4 %	106.1 %	108.1 %	105.8 %	102.8 %	105.5 %	101.8 %	86.8 %	

(2) 本月の地方運輸局別管内輸送状況（各運輸局より回答のあったもの）

北海道	<p>本月の輸送は、対前月比 102.0%、対前年同月比 100.1%であった。品目別には、季節的需要等により「野菜・果物」等が増加したと回答する事業者が多かった。一方、建設関連の需要減等により「木材」等が減少したと回答する事業者が多かった。今後の輸送見通しは、農作物の収穫時期や秋刀魚の水揚げ量回復等により次月及び以降ともに増加傾向と予想される。</p>
東北	<p>本月の輸送は、対前月比 95.2%、対前年同月比 107.9%であった。品目別には、景気回復の兆し等により「木材」、「鉄鋼」、「揮発油」が増加したと回答する事業者があった。一方、天候の影響等により「野菜・果物」等が、不況の影響等により「砂利・砂・石材」等がそれぞれ減少したと回答する事業者が多かった。今後の輸送見通しは、次月はほぼ横ばい、以降は減少傾向と予想される。</p>
関東	<p>本月の輸送は、対前月比 91.5%、対前年同月比 103.4%であった。品目別には、天候の影響等により「食料工業品」が増加したと回答する事業者があった。一方、不況の影響等により「その他の製造工業品」等が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに増加傾向と予想される。</p>
北陸信越	<p>本月の輸送は、対前月比 96.8%、対前年同月比 106.1%であった。品目別には、輸出入の貨物増等により「コークス・その他の石炭製品」等が、季節的需要増等により「食料工業品」等がそれぞれ増加したと回答する事業者が多かった。一方、不況の影響等により「機械」、「セメント」等が減少したと回答する事業者が多かった。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに増加傾向と予想される。</p>
中部	<p>本月の輸送は、対前月比 92.7%、対前年同月比 108.1%であった。品目別には、不況の影響等により「工業用非金属鉱物」等が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに増加傾向と予想される。</p>
近畿	<p>本月の輸送は、対前月比 93.3%、対前年同月比 105.8%であった。品目別には、工場・生産地からの貨物増等により「金属製品」、「その他の窯業品」が増加したと回答する事業者があった。一方、倉庫への入出庫減等により「紙・パルプ」が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しは、次月はほぼ横ばい、以降は減少傾向と予想される。</p>
中国	<p>本月の輸送は、対前月比 91.3%、対前年同月比 102.8%となった。品目別には、猛暑の影響等により「食料工業品」が、季節的需要増等により「野菜・果物」等が、景気回復の兆し等により「砂利・砂・石材」等が、それぞれ増加したと回答する事業者が多かった。一方、工場・生産地からの貨物減等により「鉄鋼」等が、季節的需要減等により「機械」等が、それぞれ減少したと回答する事業者が多かった。今後の輸送の見通しは、次月は増加傾向、以降はほぼ横ばいと予想される。</p>
四国	<p>本月の輸送は、対前月比 96.8%、対前年同月比 105.5%であった。品目別には、季節的需要増により「食料工業品」等が増加したと回答する事業者が多かった。一方、季節的需要減により「水産品」等が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに増加傾向と予想される。</p>
九州	<p>本月の輸送は、対前月比 96.8%、対前年同月比 101.8%であった。品目別には、猛暑により「機械（エアコン等の家電）」、「食料工業品（飲料水）」等が、季節的需要増等により「穀物」、「日用品」等が、それぞれ増加したと回答する事業者が多かった。一方、建設関連の需要減等により「セメント」等が、天候の影響等により「水産品」等が、それぞれ減少したと回答する事業者が多かった。宮崎県で発生した口蹄疫の影響により「動植物性飼・肥料」が減少したと回答する事業者があり、宮崎県内でも影響が続いているようである。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに減少傾向と予想される。</p>
沖縄	<p>本月の輸送は、対前月比 96.4%、対前年同月比 86.8%であった。品目別には、季節的需要増により「取り合せ品（引越貨物）」が増加したと回答する事業者があった。一方、「食料工業品」等が減少したと回答する事業者が多かった。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに増加傾向と予想される。</p>

(3) 運輸局別、品目別増減状況（対前月比）

回答のあった事業者数を取りまとめた。各欄のうち上段は増加、下段は減少件数である。

品目		運輸局		北	東	関	北	中	近	中	四	九	沖	全
		海	道	北	東	陸	信	部	畿	国	国	州	縄	計
1. 穀物	増			1			2				1	4		8
	減	2		1										3
2. 野菜・果物	増	7		1						2		3		13
	減	1		3	1							4	1	10
3. その他の農産品	増	2								1	1			4
	減	1							1			2		4
4. 畜産品	増			1						1		2		4
	減			1		1		1						3
5. 水産品	増	2		1		1						1		5
	減	3									1	2		6
6. 木材	増			3		2					1	1		7
	減	6			1							2	1	10
7. 薪炭	増													
	減													
8. 石炭	増											1		1
	減													
9. 金属鉱物	増											2		2
	減													
10. 砂利・砂・石材	増	10								4		3		17
	減	9	3		1				1			6		20
11. 工業用非金属鉱物	増	2									1	1		4
	減	1	2				2		1					6
12. 鉄鋼	増	1	2						1	2	1	1		8
	減	2				1				4		2	1	10
13. 非鉄金属	増					1						1		2
	減			1					1					2
14. 金属製品	増			1		2		3						6
	減	1	1	1	1	1		2	2	1	2			11
15. 機械	増	1	1	1	1	1	1	2				5		12
	減					2	1	1	3			2		9
16. セメント	増	2	1		1					2	1		1	8
	減	3			3					2		5		13
17. その他の窯業品	増	1							1					2
	減			1	1									2

運輸局		北	東	関	北	中	近	中	四	九	沖	全
品目		海	北	東	陸	部	畿	国	国	州	縄	国
		道			信							計
18.揮 発 油	増	1	2		1							4
	減	1										1
19.その他の石油製品	増	1								1		2
	減		2		1			2				5
20.コークス・ その他の石炭製品	増				3					1		4
	減											
21.化 学 薬 品	増		1							1		2
	減	1	1				1			1		4
22.化 学 肥 料	増	2	1							1		4
	減		1		2			1		2		6
23.その他の化学工業品	増		2		1					1		4
	減					1		1		1		3
24.紙 ・ パ ル プ	増	2			1					1		4
	減		3	1		1	2		1	5	1	14
25.織 維 工 業 品	増							1				1
	減				1		1	1	1			4
26.食 料 工 業 品	増	3	4	3	4		3	4	2	4		27
	減	2	6	2	2		3	1	1	1	2	20
27.日 用 品	増	3					2	2		4		11
	減	1	2	1			1	1		1	1	8
28.その他の製造工業品	増		1				1	2		1		5
	減		1	3		2				4	1	11
29.金 属 く ず	増										1	1
	減											
30.その他のくずもの	増											
	減									1		1
31.動植物性飼・肥料	増	1								1		2
	減	3	2		2					1		8
32.廃 棄 物	増									2		2
	減									1		1
33.輸 送 用 容 器	増	1							1			2
	減		1					1				2
34.取 り 合 せ 品	増	1		1			1			3	1	7
	減		2					1		2		5
35.そ の 他	増						3	2		2		7
	減		1	3	1		2	2		1		10